

入肺シネシンチグラフィ」により初めて視覚的にも定量的にも計測できるようになったので、Salbutamolを経口的に、単剤のみ(n=9)、または他薬剤と併用して投与(n=10)しても、さらに寛解期の気管支喘息患者(n=10)にAminophylline静注後Salbutamolを吸入させて調べても、気管支拡張は見られるが、気道粘液線毛輸送系の機能は促進されなかった。同一の気道沈着率のもとで調べる目的で、気管支喘息を含む患者(n=16)に、放射性エロソールを吸入させ、さらに、procaterolを吸入させても、procaterol吸入後の放射能時間曲線の勾配は変化しなかった。

以上より、 β_2 刺激剤は、in vivoで、気道粘液線毛輸送系を促進するとは考えにくい。

24. Ga-67-Citrateの強い集積を示したCCAM (congenital cystic adenomatoid malformation) の1例

木村 環 中村 恵彦 西沢 一治
竹川 鉦一 (弘前大・放)

乳児期胸部良性腫瘍へのGa-67-Citrate(以下Ga)集積の報告はまれである。今回われわれは、Gaの強い集積を認めたcongenital cystic adenomatoid malformation(以下、CCAM)の症例を経験したので報告する。症例は、正常分娩の11か月の男児で、61年11月下旬、咳・発熱を主訴に某医を受診し、同年12月、同様の症状再発時に、胸部X線写真・CTにて、左胸腔内に腫瘍を認め、Gaスキャンにて同部への強い集積があった。62年2月、炎症所見軽快後もGaスキャン再検にて依然強い集積を認め同年3月、舌葉切除術を施行され、組織学的にCCAMと診断された。CCAMへのGa集積は、いまだ報告されていない。本例のGa集積の原因として、組織学的に炎症巣の存在が指摘されてはいるが、炎症所見の程度と、Ga集積の程度に相関が認められず、他の原因を考えるのが妥当と思われる。乳児期、胸部へのGa集積が認められた場合、鑑別診断上、CCAMも考慮する必要がある。

25. Cortical desmoidの骨シンチグラフィ

丸岡 伸 (いわき市立総合磐城共立病院・放)
清水 正宏 中村 正人 中村 護
(東北大・放)

Cortical desmoidは大腿骨遠位骨幹端後内側のmedial supracondylar ridge部の骨皮質の不整と骨透亮度変化として認められる良性疾患であるが、時に骨膜反応やスピクラ様変化を伴うことがあり、osteosarcoma等の悪性腫瘍との鑑別を要する。4例のcortical desmoidについて骨シンチグラフィ像を検討した。男2例・女2例、年齢11-13歳、両側3例・左側1例。骨シンチグラム上、4例とも異常集積像は認められなかった。うち1例はその後骨生検にてcortical desmoidと診断された。X-P上本症が疑われ骨シンチグラフィで異常集積がなければmalignancyは否定的であり、悪性腫瘍との鑑別に骨シンチグラフィは有用であると思われた。

26. 骨シンチグラムに及ぼす放射線治療の影響

嶋 真弘 駒谷 昭夫 渡会 二郎
鈴木 敏文 安久津 徹 山口 昂一
(山形大・放)

昭和56年6月～昭和61年12月までに放射線治療を開始し、その後骨シンチを行った症例を対象とし照射部位に一致した骨シンチの集積低下photopenic effectについて検討した。骨盤部、頭頸部、四肢等の評価の難しい部位および小児は除外した。228例中29例(12.7%)に照射部位に一致した集積低下がみられた。これら29症例についてphotopenic effectのあらわれた時期、線量、部位別の比較について検討した。

その結果photopenic effectのあらわれた最短期間は照射開始より1.7か月であり、最少照射線量は30Gyであった。photopenic effectは4～6か月に出現し始めるものと推測された。photopenic effectの出現頻度には部位により差があり、胸椎>肋骨>鎖・胸骨であった。